

トランプ2.0とアメリカの未来

— 「分断」か、「再生」か —

なぜアメリカ国民は再びトランプ政権を選択したのか。

現在のアメリカ社会を分断している軸は、これまで語られてきた保守とリベラルという「左右」の対立ではなく、開きすぎた経済格差がもたらした「上下」の対立に変わったとされることがあります。労働者の「絶望死」という現象すら見られるほどに深刻化した社会的・経済的な格差に、アメリカはこれからどう向き合っていくのか。

アメリカの「再生」に向け、バンス副大統領やルビオ国務長官が上院議員の頃から政策連携を図り、新しいビジョンに基づく公共政策の考えを米論壇で活発に発信する若手論客オレン・キャス (Oren Cass) 氏が初来日を果たし、その思想とアプローチを語ります。モデレーターは近著「それでも、なぜトランプは支持されるのか」(東洋経済新報社)の著者である会田弘継氏(思想史家、ジャーナリスト)です。

【講演】



オレン・キャス (Oren Cass) アメリカン・コンパス設立者、チーフエコノミスト
ウィリアムズカレッジ(マサチューセッツ州)BA、ハーバード大学ロースクールJD。シンクタンクAmerican Compassを2020年に設立。2005年から2015年までコンサルタント会社(Bain&Company, Boston)に勤務。ミット・ロムニー候補の2012年米大統領選挙活動における国内政策ディレクターを務めた。米国の保守派/共和党が経済アジェンダの支柱としていた「小さな政府」の方針を転換し、家族・コミュニティなどの価値の再生と、格差社会を是正するための保守派の改革を唱える「改革保守(リフォーモコン)」と呼ばれる知識人の中心人物の一人。著書に『The Once and Future Worker: A Vision for the Renewal of Work in America』(2018年)。フィナンシャル・タイムズおよびニューヨーク・タイムズに定期寄稿。

【モデレーター】



会田 弘継 (あいだひろつぐ) 思想史家、ジャーナリスト
東京外国語大学英米語科卒業後、共同通信社に入社。ワシントン支局記者、ジュネーブ支局長、ワシントン支局長、編集委員室長・論説委員長などを歴任。青山学院大学教授、関西大学客員教授なども務めた。著書に『それでもなぜ、トランプは支持されるのか』(東洋経済新報社)、『破綻するアメリカ』(岩波現代全書)、『トランプ現象とアメリカ保守思想』(左右社)『増補改訂版 追跡・アメリカの思想家たち』(中公文庫)、『戦争を始めるのは誰か』(講談社現代新書)など。訳書にフランシス・フクヤマ『政治の起源』上下『政治の衰退』上下(いずれも講談社)などの他、アメリカ現代思想史・政治に関する論文多数。

日時：2025年3月18日(火) 18:30 - 20:00 (開場18:00)

会場：紀尾井カンファレンス ※永田町駅・赤坂見附駅(永田町駅直結)
(千代田区紀尾井町1-4 東京ガーデンテラス紀尾井町 紀尾井タワー4F)

参加申込：QRコードもしくは登録フォームURL(<https://forms.office.com/r/FcFqj0S775>)
よりお申し込みください。(3月17日(月)15時まで)

日英同時通訳 | 入場無料

【主催】 独立行政法人 国際交流基金

【お問い合わせ】 国際交流基金 国際対話部(事業第1チーム) gpl_info@jpf.go.jp

